

令和6年度 第3回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 令和6年11月11日（月）10:00
2. 出席状況 委 員 9名（川染会長、青木委員、明吉委員、井上委員、加藤委員、
小須田委員、小林委員、篠原委員、橋本委員）
事務局 5名（文化振興課長、文化振興係4名）
3. 傍 聴 人 傍聴人 なし
4. 議 題
 - 1 開会
 - 2 審議事項
 - （1）文化芸術振興基本計画[第4期]の策定について
 - 3 その他
 - 4 閉会
5. 会議資料
 - 資料1 大和市文化芸術振興基本計画[第4期]案
 - 資料2 大和市文化芸術振興基本計画[第4期]策定についての意見
 - 資料3 大和市文化芸術振興基本計画[第4期]策定の会議スケジュール（予定）
 - 資料4 大和市文化芸術振興基本計画[第4期]目標数値の設定理由

【会議要旨】

- 1 開会
- 2 審議事項
 - （1）文化芸術振興基本計画[第4期]の策定について
 - 市から、「文化芸術振興基本計画[第4期]の策定について」を説明。

【意見交換】

- | | |
|-----|---|
| 委員 | P4「第3期計画の取り組みと成果」について。記載の通り、「有事が生じた場合の迅速な対応」が第3期の大きな成果であると考えている。 |
| 委員 | P10「文化資源を活かした文化観光の推進」について。文化財施設を有効に活用し収入を得、文化芸術振興の財源を確保してほしい。小さなことでもできることをやっていくことが大切。 |
| 委員 | 観光と文化を結び付けている例が全国に多くあるので参考にしてほしい。市内を周遊するツアーなど。 |
| 事務局 | ツアーについては、近隣市と連携して実施すると持続的なものになるかもしれない。 |
| 委員 | スポーツ等、様々な分野と連携してほしい。 |
| 委員 | 子どもたちはデジタルに親しんでいる世代。デジタルとの融合を積極的に進めてほしい。 |
| 委員 | 分野ごとの縦割りではなく、時代にあった部署間の連携が必要だが、市町村だけの力では難しい。国が政策を見直すべき。 |
| 委員 | 文化芸術は高齢者や心身に不自由がある人でも活動が可能。このような方たち向けの変革も必要。 |

委員	P I 3「芸術文化ホールがすべての人にとって利用しやすい施設となるよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境の整備を継続して進めます。」との記載について、「芸術文化ホールが」との記載に違和感がある。ほかの施設も入れた意味合いに変更したらどうか。
委員	入り口は施設の顔。シリウスⅠ階をより文化芸術の拠点にふさわしい配置にしているかどうか。
委員	P I 8施策目標4「文化芸術の振興を牽引する担い手を育てる」が最も重要な施策だと考える。文化の担い手をどう継続的に育てていくかに力を注いでほしい。
委員	シリウスを起点に文化芸術の輪を広げていこうという考えに変わりはないか。
事務局	変わりはない。
委員	シリウス利用者には市外在住者も多い。ここから収入を得られる仕組みがあるとよい。
委員	新規書籍を充実させた鮮度の高い図書館になってほしい。
委員	ホール利用者としてシリウスは立地や規模の点で非常に魅力的。市民・市外の利用料金に差をつけてはどうか。
委員	利用料に差をつけ市外の利用者が減ると、大和の文化の質が高まらない。バランスが難しい。
委員	行政が講師派遣の予算を組み、担い手を育てるような仕組みがあるとよい。無料のボランティアでは厳しい。
委員	地域力・人間力の向上によって市内文化を高めていくことが大切。
委員	法律との兼ね合いもあり難しいと思うが、文化団体が学校に出向き、芸術や伝統文化を披露したり教えたりすることで、子どもが文化に親しめる機会を作れるとよい。文化振興課と教育委員会が連携してほしい。
委員	現状、コネクション等がなければ団体が学校授業にかかわることが難しい。教員の負担少なく指導要領にのっとった鑑賞授業パックを作成することができれば、団体は発表の場所を確保でき、学校は安価で鑑賞の機会を得られ、双方に利がある。
事務局	市内の団体の紹介という形で学校に情報提供することは可能。
委員	アウトリーチ活動等でしかるべきクオリティを提供するにはしかるべき金額がかかるので、公的な仕事の謝金を変えていく必要があると思う。

3 その他

- 市から、文化芸術顕彰について報告。新規事業である茶の湯はじめについて説明。
- 市から、次回の文化芸術振興審議会開催日程について説明。
- 委員より、自身の活動について説明。

4 閉会